

東日本大震災 沖縄民医連 支援ニュース

第13号 2011年4月1日(金) 電話:098-833-3397

第4陣(団長・比嘉千明医師)の5人のみなさんが、1週間の支援活動を終え、本日(1日)帰ってきます。本当にご苦労様でした。労をねぎらってください。ブログより「報告」を紹介します。

第4陣支援団から最後の報告——「沖民救援隊ブログ」より

<くちよつとした笑いや和みの時間が皆さんの癒しにもなりつつあるようです>

震災から19日。

今日から避難所の食事にも変化が表れ、朝は、熱々の米飯の上に缶詰めの鯖。大根スープ。昼ごはんは、カレーうどん。夕ごはんは八宝菜丼。

トイレは簡易トイレ。もちろん汲み取り式。しかも、体育館の外にあり足の悪い方も杖をつきながら、寒い中トイレに行きます。仲西所長公認のお節介な私は、早速、トイレへの道のりを手助けしたら皆さんに叱られました。あなたは、ずっと付き添って介助できるのか？と。そうです、全ての人が自立しなくてはならないのです。生半可な支援はいらないのです。

シャワーは、もちろんありません。被災してから2度、自衛隊によるお風呂があったようです。

今日は、22人限定で秋保温泉にご招待で行かれていました。服は着のみ着のまま逃げた方ばかり。被災時のままだと話されていました。下着さえ替えられないのです。昨日、初めて川崎市から衣料支援で下着以外は古着が送られてきました。古着でも嬉しいと、喜ばれていました。早速、着替えて、『見てー。素敵でしょう?』と、私に見せに来てくれる方も。なんだか、胸がいっぱいになりました。

避難所生活での看護師の仕事に、夜の体操があります。1日3回、被災者のエコノミークラス症候群予防に行きますが夜が私の担当。決まりもなく看護師の好き好きで、舞台上に立ち地声で行います。ここで、私のうるさい声が本領発揮し、毎朝、にじくりでラジオ体操していたのが役立ちました。体操後に、各テリトリーを踏み付けないようにラウンドし、おしゃべりに花が咲くことも。テレビもなくラジオだけの生活。沖縄の話を開かせて！と、リクエストが多かったです。くちよつとした笑いや和みの時間が被災者の皆さんの癒しにもなりつつあるようです。紙一重で、家も家族も失った現実。『前を向いていかなくちゃ!』と、皆さんが口にします。『自分は、生かされている。何かをしろって生かされているんだよね。』って、辛い現実を抱えながらも前を向いて生きていこうと自分自身を奮い立たせる姿に涙が出て、一緒に泣いてしまいます。ある方が言いました。『最初は、こんな辛い思いをするくらいなら津波で死んじやええ良かったって思った。涙も出なかった。けどね。色んな人に優しくしてもらって、あなたみたいに遠くからも支援に来てくれている。今は、ありがとって思いが嬉しくて、初めて涙がでたんだよ。』って。(協同にじくり:室岡美和子)

<今後は高齢者などが避難所に取り残されてしまわないように・・・>

今日は早起きして海岸付近の被災地巡りをしてきました。特に被害状況が大きかった七ヶ浜というところ。坂病院付近は津波の被害がないため、生活できる建物が多くあります。しかし、少し海の方へ近づくとテレビでしかみたことのなかった悲惨な光景が広がっていました。道路に車が通れるだけのスペースを確保しただけ。崩壊した街並みは早朝ということもあり、人氣が全くなく廃棄物処理場の中を歩いているような感覚でした。また、地元の方からの声としては、津波の被害を受けた場所と受けてない場所とでは天国と地獄の差ほどある、とありました。それほど、今回の地震において津波による被害が大きかったのか再確認できました。

この数日間、自分は避難所を中心に活動をしてきました。

現状としては、早急に医療的な処置が必要な方々へのアプローチは一段落したと思われます。今後は高齢者などが避難所に取り残されてしまう可能性があります。

地域にあるデイケアなどの福祉サービスはガソリン不足により送迎困難な状況であり、寝たきりの方などの増加が予想されます。そして、避難所では清拭や足浴などの生活支援が必要になってきています。

廃用予防などが課題となり、介護やリハビリ職の支援が必要な時期にある印象を受けました。

そのため、避難所によっては集団リハビリを行えるように、デイケアのようなシステム作りを始めている場所もありました。第五陣の方々は少し期間があきますが、情報交換など、引き継ぎをしていければと思います。

(とよみ生協病院:行徳拓馬)